来賓挨拶１．松田岩夫　内閣府特命担当大臣（科学技術政策担当）

今日はＪＳＴの中国総合研究センターのオープニング、おめでとうございます。みんなで力を合わせて、このオープニングの意味が 10 倍にも 100 倍にもなるように頑張っていきましょう。さて、私は先週、中国を訪れる機会を得ました。せっかくの機会ですから、少しだけお話しさせていただきます。

日中両国は、中国は科学技術強国、日本は科学技術創造立国と、言い方は違いますけれど意味するところは同じで、国の発展の中核に科学技術というものを両国それぞれ据えております。これは正しい選択だと心から信じています。そこで、閣僚が少なくとも毎年１回、きちっとお互いの政策を話し合おうではないかということで、定期協議をつくることとし、先週その第１回目を行いました。そこで決定したことを御報告いたします。

日中間の従来の協力分野、これまでは主に環境やエネルギーといった分野で大変御協力をいただいてまいりました。この分野は当然のこと、さらに今後、自然災害や感染症の分野においても、アジアの同胞、友として、ともに抱える課題の解決に向けて、お互い力を合わせて頑張っていこうということを決めました。

さらには、これまでお互い研究協力はしてきましたが、そのことがお互いの国民のため、社会のため、あるいは世界・人類のために、大きな便益を与える成果を生んだであろうか、ということで、これから研究協力を一層進めると同時に、日中両国の産学官のトップレベルで、この研究成果が世界人類のためのイノベーションを起こし得るように、日中イノベーション創出総合戦略会議というものを設立することを決めました。

このように中国科学技術部の徐部長等と会談した他にも、私の古い友である周強中国共産党青年団第一書記と、お互い今こそ力を合わせ、両国の若手科学者・技術者の交流促進、子供たちの科学技術活動の交流促進、さらには、若い経営者・民間企業を含めて、幅広い産学連携を抜本的に強化していこうではないかということを合意いたしました。

こうしたことを受けて、今日ここに、皆さんとともにこの研究センターのオープニングでご挨拶させていただく機会ができました。このセンターが中心に、まさに架け橋となって、日中の相互理解はもちろんのこと、新たな交流・協力を進め、その協力の結果が現実に目に見えるように、中国と日本の豊かな社会・経済の建設、ひいては人類、この地球上の問題に、ともに解決に当たっていきましょう。今日のオープニング、本当におめでとう

ございます。今、お互いに確認しあった方向に向かって、全力で皆さん、前進していこうではありませんか。ありがとうございました。